

CIEC 第 79 回研究会報告 (小中高部会主催)

テーマ 「クレイアニメーション制作と協調自律学習」

日時 2009年1月30日(金) 13:00~15:30

会場 八王子市立由木中央小学校 図工室

授業者 尾池佳子(八王子市立由木中央小学校)

司会 大橋真也(千葉県立東葛飾高等学校)

参加者 18名

今回の研究会は2008年6月に京都女子高等学校を会場に実施された第75回研究会「なぜ協調自律学習は必要か」の成果を受けて、子どもたちに対する授業実践を見学し議論を深めるために公開授業という形態で開催された。

公開授業は2008年6月2日の朝日新聞の「花まる先生」でも取り上げられ、過去のPCCでも様々な実践研究について発表している八王子市立由木中央小学校の尾池佳子先生による「クレイアニメーション制作」だった。



授業の冒頭で指示を与える尾池佳子先生

尾池先生の簡単な指示により授業が始まると、グループごとに分かれた生徒達は正に協調しながら自律してやるべき活動に専念していた。主にクレイトーン(クレイアニメ用油粘土)を使ってキャラクターの作成やら背景作成を行っていたが、クレイタウン(クレイアニメ作成ソフト)を使って撮影作業に入っているグループもあった。背景の制作手法は自由で、手書き、切り絵、工作物、パソコンで作成して印刷など多岐にわたっていた。



本格的な道具を使用しキャラクターを作成する児童



切り絵で背景を作成する児童



ビデオカメラでコマ撮り撮影しPCで編集する児童

尾池先生が苦勞して整備したノートPC、プリンタ、ビデオカメラ、三脚、テーブルタップ等々、図工室とは思えない機材と指導ノウハウがあってこそ成立する授業と多くの参加

者が感心していた。



アナログとデジタル。手作業と IT の自然な融合を見る事が出来た。完成した 3 分間のクレイアニメーションを児童は DVD の形で持ち帰るのだそうだ。



何の気負いも力みも無く、パソコンを道具の一つとして自然に使いこなしている子供達の姿に、ポジティブな意味での「デジタルネイティブ」という言葉が浮かんできた。

尾池先生は授業者というより、授業デザイナー、授業コーディネーター、ファシリテーターと呼ぶ方がしっくりと来るような立ち位置で、45 分間という限られた時間を見事にコントロールしていた。授業の最後まで子供達の集中力は途切れる事が無く、各自のやるべき事を個人であるいは協力しながら正に自律的に行っていた。

今回の研究会は小学校での公開授業を中心に据えて行った。会場が利便地ではないのにも拘らず、尾池先生の授業を実際に見る事ができるという貴重な機会であったため、遠方からの参加者もあるなど関心の高さが窺えた。また、公開授業終了後の意見交換も活発で、協調自律学習への理解が深まったものと考えられる。

アンケート結果においても、自律的に学習活動を行う生徒達や、整備された教室環境への驚きや、協調自律学習の成果を目の当たりにした感動のコメントが多く寄せられていた。

見学したすべての参加者が、多くのインスピレーションを得る事ができた研究会だったと思われる。

なお、2009PC カンファレンスのプレ企画において、協調自律学習のワークショップおよび、今回の公開授業を含めた事例紹介が行われる予定である。

(文責：高瀬敏樹)